

わたしほんとうに

同じこの病院にも、病んでいる部位は違つてもこの癌と言う病で手術をなさった方が何人かおられます。肺癌・大腸ガン、子宮筋腫や乳癌などなど。

亡くなつたと知られました。

こうした素晴らしいしあわせに包まれ育まっていたわたしに、なぜ今まで気づかなかつたのだろう。

なんのことなく、私は南無阿弥陀仏ナムアミダブツと、お念佛がでて下さいました。ラッキーもラッキーだけど、わたしほんとうにハッピーです。

病を得てはじめて知った幸せでありました。



声もお兄ちゃんの声もお客さんの声も全部届いているのですが、その中からたった一つのお母さんの声を選び分けて聞いているのです。これは平生からお母さんは、赤ちゃんが、泣いたり手足をバダバタしたりすると必ず抱っこをしてくれたりオッパイをくれたりするからです。ぴったりと一致する関係ができるまでいるからです。

金

金子

恐ろしくて怖くて、このからだを切られるなんて、とてもとても受けいれることはできません。お医者さまからや身近な者たちから説得されればされるほど、恐怖は増すばかりでありました。

手術のあとでも、同じ病の人が亡くなつたと聞いた時には、自分にもすぐその日がくるようと思えて、いとも立つてもどうしてみようもありませんでした。す。
そのわたしが、術後2週間目に退院できま

「よく頑張ったね」と主治医の先生や看護士さんたちから祝福していただきました。「ラッキーだったんだよ。ほんとうは危ない手術だつたんだけど、結果、転移もなにもなくてね！」

そのときわたしは始めて目が覚めたようでした。
確かに、駄々っ子のような私をとにかく押さえ込んで手術をしてくださった先生にでありますことは本当にラッキーというほかありません。

それはそうとして、今まで、私自身み寄りもなにもない頑固な一人暮らしの「じじい」と思っていたのに、今こうして病院の玄関には、あの人この人、何人もの人々が迎えにきてくれている。みんなみんなこのわたしを、いろいろな形で心配し見守ってくれた人々。こんなにたくさんの人見守られていたのだ。

・

そればかりではない。雨上がりの緑輝くあの山はどうだ。早苗そよがして吹いてくるこの風のかぐわしさ。

身障者といつてもわたしは軽いほうで、なかなか家の周りの畠仕事くらいは、なんとかそこそやっております。だが、一番困るのは寝付きはよくて夜九時には床に入つてグッスリたっぷり眠るのですが、朝三時にはもう目が覚めてしまうことです。それで、仕方なくラジヲの深夜放送を聞くのです。

早朝「ラジヲ深夜便」。うとうとしながら聞えるのですから、いいお話し聞いたもうろ覚えです。

それでも最近印象に残つたことを書いてみます。

耳の聞こえない聴覚障害の子供の教育に長年かかわつてこられた「安積先生」のお話したくさんのがいろいろ耳に入つてきて、その全部が全部聞き取れるわけではない。耳に聞こえていても、心にまで聞きとれるにはその音源がわたしにとつて大切なものであると思われなければ聞いていても聞こえないのです。たとえば赤ん坊の耳には、お父さんの

つい先途、「白川先生」の漢字のはなしで「金う」という字のいわれをおしえていただきました。

こんなにたくさんになれるのよ、
私は魔法つかいなの。
何かいいことして遊ぼ、
つるべの縄に蜂がいる、
私も蜂になつてあすま。

お母さまはお洗濯、
たらいの中をみていたら
しゃぼんの泡にたくさん
ちいさなお空が光うてて
ちいさな私がのぞいてる

四〇九

会 6画

屋根のついた炊
に蓋をして、い
に煮る。それを
に)「というも
です。
ます。「違う

こんなに青い、青そらか、
わたしの羽にさわるのは、
どんなに、どんなに、いい気持ち
疲れりや、そこの石竹の、
花にとまつて、蜜吸つて、
花のおはなししきいてるの。

ゴボウもコンニャクも里芋も、小豆も、
「みんな違つてみんないい」。
先月の寺報で、仏教では彼岸会・追悼会・
修正会、盂蘭盆会で、だれでもみんな、ほと
けさまのお呼び声のなかに出会いましようネ、
女も男も子供も亡くなつた方とも。これが仏
教と説いてありました。

なんだか蜂になつたよう、
なんだかお空を飛んだよう、
とても嬉しくなりました。

0796-52-3083 FAX 0796-52-5822

テレホン法話 0796-52-5800